

## 日銀短観(2010年9月調査)予測

当社は、9月29日に発表される日銀短観(2010年9月調査)の業況判断DIと設備投資計画の予測を行いました。業況判断DI(大企業)は、6月調査に比べ改善ペースは鈍化するものの、製造業、非製造業とも引き続き改善することが見込まれます。2010年度の設備投資計画は、6月調査からわずかに上方修正されると予想されます。

業況判断DI: 大企業・製造業 7%ポイント、大企業・非製造業 -1%ポイント  
設備投資計画: 全規模・全産業 1.7%

### 【業況判断DI】

日本経済は、エコカー補助金などの政策効果に加え、猛暑効果もあり、この夏までは回復を続けており、業況判断DIは、製造業、非製造業とも引き続き改善すると見込まれる。輸出財産業に比べ遅れていた、消費・サービス産業など内需関連の改善も進むと見込まれる。大企業製造業の業況判断DIは今回調査で7と6月調査比6ポイントの改善、大企業非製造業の業況判断DIは今回調査では-1と6月調査比4ポイントの改善が見込まれる。中堅、中小企業への景気の波及は遅れており、大企業に比べ改善幅は小幅なものにとどまると予想される。秋以降は、世界経済の回復ペースの鈍化に加え、エコカー補助金の打ち切りに伴う自動車の生産調整などに直面し、日本経済は軽い踊り場に入ると考えられる。このため、先行きの業況判断DIは、やや悪化すると見込まれる。

### 業況判断DI

(「良い」-「悪い」、%ポイント)

		6月調査	9月調査	
		最近	最近	先行き
大企業	製造業	1	7	3
	非製造業	-5	-1	-2
	全産業	-2	3	1
中堅企業	製造業	-6	0	-4
	非製造業	-13	-9	-12
	全産業	-10	-5	-9
中小企業	製造業	-18	-13	-19
	非製造業	-26	-24	-27
	全産業	-23	-20	-24

## 【設備投資計画】

2010年度の設備投資計画(全規模・全産業)は前年度比1.7%と、6月調査の前年度比0.5%から、わずかに上方修正されることが見込まれる。景気回復に伴い、設備投資は緩やかに増加しているものの、その水準は依然低い状態が続いている。大企業は潤沢なキャッシュフローを持ち、投資意欲も決して弱いとはいえないが、国内に有望な投資案件を見出せないことが、設備投資の本格回復の足かせとなっており、円高の進展がそうした傾向に拍車をかけている。中小企業については、需要の戻りが鈍く、なお設備投資意欲が回復していない。設備投資計画の先行きについては、通常の景気回復期と同様、年度が経過するにつれ上方修正されていくと考えられるが、上方修正のペースは緩やかなものにとどまる可能性がある。

### 設備投資計画

(前年度比、%)

		2009年度	2010年度	
		実績	6月調査 計画	9月調査 計画
全規模	製造業	-32.6	2.8	4.5
	非製造業	-12.7	-0.4	0.6
	全産業	-19.4	0.5	1.7
大企業	製造業	-32.2	3.8	5.3
	非製造業	-8.8	4.6	5.0
	全産業	-17.0	4.4	5.1
中堅企業	製造業	-34.7	8.4	9.5
	非製造業	-24.1	-6.3	-5.2
	全産業	-27.5	-2.0	-0.9
中小企業	製造業	-32.1	-9.1	-4.9
	非製造業	-17.5	-17.6	-14.1
	全産業	-21.7	-15.5	-11.7

《本件に関するお問い合わせ先》 株式会社富士通総研 経済研究所 上席主任研究員 米山秀隆  
 電話 03-5401-8392(直通) E-mail: [yoneyama.hide@jp.fujitsu.com](mailto:yoneyama.hide@jp.fujitsu.com)

\* 本資料は日銀記者クラブ、内閣府記者クラブにて配布いたしております。

以上